

2026年 トンネル標準示方書シールド工法アンケート項目

※本アンケート項目の Q1～Q4 はシールド工法編について、Q5 は共通編についての質問項目となります。

【記入者情報】

- | |
|--|
| ・機関別コード、・記入者別コード
・所属（会社・部課名までご記入ください）
・記入者名（記入）、・電話番号（記入）、・メールアドレス（記入） |
|--|

【シールド工法編に関する質問】

Q1. 現行示方書の使用状況をご回答ください。（複数回答がある場合は、最も優先順位が高い番号を記入）
--

Q1-1 示方書の使用状況（1.使用している。2. 使用していない）

Q1-2 Q1-1で「1.使用している」とご回答いただいた方は、下記設問にご回答お願いいたします。

1) 使用方法（1.全面的に基準の示方書としている、2. 独自の基準に内容を取り入れている、3.独自の基準にないものは内容を取り入れている、4.参考図書として使用している）
--

2) Q1-2で「4.参考図書として使用」とご回答いただいた方は、参考図書としての使用方法をご回答願います。
--

[参考図書としての使用方法]

（1.独自の基準の参考、2.工法材料製品の開発・製造の参考、3.研修・教育の参考、4.その他業務上の参考資料）

3) 調査、設計工事の発注に際し、本編を契約の中の準拠示方書または参考図書として使用していますか。

Q1-3 Q1-1で「2.使用していない」ご回答いただいた方は、下記設問にご回答お願いいたします。

1) 不使用の理由（1.他の基準に準拠、2.自機関の基準がある、3.その他）
--

2) 上記設問で、「3.その他」とご回答いただいた方は、不使用の理由をご記入願います。※図表などの貼り付けはご遠慮ください。
--

【シールド工法編に関する質問】

Q2. 現行示方書の記載内容についてご回答ください。

Q2-1. 現行示方書において、問題点、修正、削除、簡素化等の具体的な意見がありましたらご記入下さい。

編・章 番号	頁	行数	章節項・解説を削除、 簡略化したほうがよい 場合（→チェック記 入）		ランク <small>注1)</small>	原文 ※図表など の貼り付け はご遠慮く ださい。	修正意見 ※図表などの貼り付け はご遠慮く ださい。
			削除	簡略化			
			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			

注 1) ランク区分は：A；要修正、B；修正が望ましい、C；改訂に際しての参考意見

注 2) 集計の都合上、回答欄の行数、列数の変更はご容赦下さい。

上記回答欄（行数）が不足する場合には、複数のアンケートファイルでご回答いただくようお願いいたします。

Q2-2. 現行示方書において、記載内容を充実したほうが良い項目や内容がありましたらご記入下さい。

編・章 番号	頁	充実したほうが良い項目や内容 ※図表などの貼り付けはご遠慮ください。

Q2-3 次期示方書において、標準的な考え方を示したほうが良いと考えられる新分野、新技術名とその内容をご記入ください。

	分野・技術名	内 容※ ※図表などの貼り付けはご遠慮ください。
①		

【シールド工法編に関する質問】

Q3. シールド工法に関する下記質問にご回答ください。

Q3-1. 覆工（セグメント）設計で使用されている設計法について、対象構造および設計法を教えてください。設計法は準拠している基準があれば名称を記入してください。

設計対象構造が複数ある場合は、対象構造別に回答してください。同種の構造でも企業者が異なることで設計法が異なる場合は、それぞれ回答をお願いします。

(対象構造)

①	鉄道
②	道路
③	下水道
④	上水道
⑤	電力（送電用）
⑥	通信
⑦	ガス導管
⑧	共同溝
⑨	水路トンネル
⑩	海外
⑪	その他

(設計法)

①	許容応力度設計法
②	許容応力度設計法、L2耐震設計のみ限界状態設計法
③	限界状態設計法
④	性能照査型設計法

(回答欄)

対象構造	設計法	基準名

【シールド工法編に関する質問】

Q3. シールド工法に関する下記質問にご回答ください。

Q3-2. 覆工の設計方法について

覆工の設計法は、2006年版で許容応力度設計法を主たる設計法としながら限界状態設計法の基本的な考え方を記載し、2016年版で許容応力度設計法と限界状態設計法とを同等の設計法として併記しています。

近年、多くの土木構造の設計基準類が、限界状態設計法に移行しています。また、覆工の設計での適用事例も出てきています。

限界状態設計法は、設計の作業量は増えますが、設計対象構造の耐久性や安全性をより合理的に評価できる利点があります。このため、シールド工法の覆工設計法についても、限界状態設計法への移行を進めるべきとの意見があります。

このような状況を踏まえ、次回の改定において、示方書で採用すべきと考えられる覆工の設計方法についてご意見をお聞かせください。

①	許容応力度設計法と限界状態設計法を併記する（現在の示方書の記載を維持）
②	許容応力度設計法を基本とし、限界状態設計法を記載する
③	限界状態設計法を基本とし、許容応力度設計法の記載を残す
④	限界状態設計法とする
⑤	その他（ ）

Q3-3. [Q3-2] で①または②と回答された方に伺います。

限界状態設計法に移行しない理由についてご意見をお聞かせください。

回答は該当する選択肢をチェック（複数可）していただき、その理由などについて教えてください。

<input type="checkbox"/> ①	設計に用いる自基準または発注者の基準が許容応力度設計法のため →設計基準（ ）
<input type="checkbox"/> ②	限界状態設計法がわかりにくい設計が困難 →わかりにくい事項（ ）
<input type="checkbox"/> ③	設計事例が少なく、限界状態設計法による設計結果や傾向が不明なため →理由（ ）
<input type="checkbox"/> ④	セグメントの設計に限界状態設計法を適用する必要はない →必要ないとする理由（ ）
<input type="checkbox"/> ⑤	限界状態設計法での設計や照査を実施できる体制となっていない →不十分な体制の内容（ ）
<input type="checkbox"/> ⑥	照査項目の増加などにより設計費用が増加するため →理由（ ）
<input type="checkbox"/> ⑦	限界状態設計法を適用する利点が不明なため →期待する利点（ ）
<input type="checkbox"/> ⑧	許容応力度設計法で設計された既設構造との不整合が生じると困るため →理由（ ）
<input type="checkbox"/> ⑨	発注者からの指示がない
<input type="checkbox"/> ⑩	設計ツール（計算プログラムやアプリなど）が対応していない →理由（ ）
<input type="checkbox"/> ⑪	その他（具体的に教えてください） →理由（ ）

【シールド工法編に関する質問】

Q3. シールド工法に関する下記質問にご回答ください。

Q3-4. 維持管理の面から設計時や建設時に考慮すべき事項、維持管理に引き継ぐべき事項について、示方書（現示方書 第1編 第4章）に追記または記述の充実を行ったほうがよい事項をチェックしていただき（複数可）、それぞれの具体的な内容を回答してください。

なお、本設問は設計時や建設時などを対象とし、供用後に実施する維持管理に関する事項（点検作業、耐力評価、補修や補強構造の種類や検討など）は対象外とさせていただきます。

①	<p>耐荷性能に関する事項</p> <p><input type="checkbox"/>セグメント構造について→内容（ ）</p> <p><input type="checkbox"/>使用材料について→内容（ ）</p> <p><input type="checkbox"/>変状（圧密、近接施工など）の想定について→内容（ ）</p> <p><input type="checkbox"/>その他（ ）</p>
②	<p>耐久性に関する事項</p> <p><input type="checkbox"/>鉄筋かぶりについて→内容（ ）</p> <p><input type="checkbox"/>使用材料について→内容（ ）</p> <p><input type="checkbox"/>止水について→内容（ ）</p> <p><input type="checkbox"/>その他（ ）</p>
③	<p>供用後の維持管理に配慮した構造</p> <p><input type="checkbox"/>点検作業などに配慮した構造（例：点検作業空間の確保など） →内容（ ）</p> <p><input type="checkbox"/>補修や補強の対策が実施できる構造 →内容（ ）</p> <p><input type="checkbox"/>その他 →内容（ ）</p>
④	<p>維持管理に引き継ぐべき設計資料</p> <p><input type="checkbox"/>設計図書（設計計算書、構造計算結果、構造配筋図 など） →内容（ ）</p> <p><input type="checkbox"/>設計計算書から維持管理に必要な変状を設定しておく （変形量と耐荷性能の関係／耐久性に関する照査結果など） →内容（ ）</p> <p><input type="checkbox"/>設計時の調査資料（地盤調査、水質調査など） →内容（ ）</p> <p><input type="checkbox"/>その他（ ）</p>
⑤	<p>維持管理に引き継ぐべき施工資料</p> <p><input type="checkbox"/>竣工図書（構造図、配筋図 など） →内容（ ）</p> <p><input type="checkbox"/>施工記録（掘進日報／リング報／ジャッキ推力／ひび割れ状況／ 材料試験結果／セグメント製品検査結果 など） →内容（ ）</p> <p><input type="checkbox"/>施工時の調査資料（地盤調査、水質調査など） →内容（ ）</p>
⑥	<p>維持管理に有効な最近の技術に関する記述</p> <p><input type="checkbox"/>CIM（Construction Information Modeling/Management）</p> <p><input type="checkbox"/>3D 構造モデル</p> <p><input type="checkbox"/>その他 →内容（ ）</p>
⑦	<p>その他（項目、内容を記載してください）</p> <p><input type="checkbox"/>（ ）</p>

【シールド工法編に関する質問】

Q4. その他、現行示方書に関する自由意見がございましたらご記入ください。(全体構成、章立て等の意見含む)

【共通編に対する質問】

Q5. 現行示方書で新設された共通編について、何か意見がございましたらご記入ください。

以上